



TITLE:

<V>国際連携

AUTHOR(S):

河野, 亘; 飯吉, 透; 松下, 佳代; 長沼, 祥太郎;  
Wijerathne, Isanka; 安宅, 純子; 酒井, 博之

---

CITATION:

河野, 亘 ...[et al]. <V>国際連携. CPEHE Annual Report 2019, 2018: 39-41

ISSUE DATE:

2019-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/241570>

RIGHT:

## V. 国際連携

本センターでは、海外の大学教育の研究開発組織や研究者・実践者との交流・共同研究を進め、そのプロセスや成果をシンポジウム、研究会、書籍などで公開しています。

### 1. 国際シンポジウム「ブレンディッドな次世代高等教育を展望する ―アジアのトップ大学のICT活用教育最前線―」

北京大学、ソウル大学校、香港科技大学といったアジアのトップ大学から先端の取り組みを先導しているリーダーやアドミニストレーターを基調講演者として迎え、2018年3月2日、京都大学芝蘭会館にて国際シンポジウムを開催しました。

近年、MOOC・SPOC・OCWやその他のオンライン教材・学習環境を利用した反転学習やBlended Learningが国内外で進み、MOOCやオンライン教育を利用した新たな単位・学位・専門資格の取得システム・制度づくりの動きが活発になっています。我が国でも、産業分野や労働市場の急激な変化に伴う「社会人の学び直し」や「リカレント教育」の推進、ICTを利用した新しい教育方法の戦略的な活用は、大学関係者や産学官のステークホルダーにとって喫緊かつ重要な課題となっています。

本シンポジウムは、各大学の取り組みの事例紹介等を通じ、ICTや新たな教育方法・環境を利用し、多様な学生の学びをいかに効果的・効率的に支援できるかを概観し、ブレンディッドな次

代高等教育の可能性を展望することをめざして企画されました。講演やパネルディスカッションでは、MOOCの開発や反転学習の実践、ラーニングアナリティクスに基づくブレンディッド教育カリキュラムの開発、マイクロクレデンシャル等の多岐にわたる話題が、各大学の先進的な実践事例と共に取り上げられました。

参加者数は86名(学内39名、学外47名)にのびりました。事後アンケート(回答者数33名)の結果を見ると、有意義度は平均4.5(5件法)で、回答者全員から有意義であったという回答が得られました。自由記述では、「MOOCによる教育と大学における教育の関係・違いという側面からの話題が大変興味深かったように思います。時代の流れと現実のカリキュラム作りという視点も考えさせられた点でした。」「MOOCの教育を作る側および運営する側からの展望や課題に関して考えることができ、10年後の社会の様子を展望することができた点が参考になった。」といった意見が寄せられました。

- 国際シンポジウム: <http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/02/20180302.pdf>



プログラム	
13:30～	開会挨拶 喜多 一(京都大学情報環境機構長・国際高等教育院教授)
13:35～	講演「京都大学におけるMOOC・SPOCの現状と展望」 酒井 博之(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)
13:50～	講演「京都大学におけるICT活用教育促進の取り組み：教育実践の見える化と共有を通じて」 田口 真奈(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)
14:05～	特別講演「ICTによって強化された2025年の高等教育を展望する」 飯吉 透(京都大学教育担当理事補・高等教育研究開発推進センター長・教授)
14:25～	特別講演(ビデオ出演)「MOOCとブレンディッド・ティーチングの促進：大学と教員としての経験から」 Xiaoming Li (Head of MOOC initiatives, Peking University, Director, Institute of Network Computing and Information Systems)
14:40～	休憩
14:55～	基調講演「香港大学におけるテクノロジー活用学習」 Ricky Yu-Kwong Kwok (Associate Vice-President (Teaching and Learning), University of Hong Kong)
	基調講演「ソウル大学におけるブレンディッド・ラーニング」 Cheolil Lim (Professor, Department of Education, Seoul National University, President, Korean Society for Educational Technology)
	基調講演「MOOCsを越えて：挑戦と好機」 Ting Chuen Pong (Senior Advisor to the EVPP (Teaching Innovation & E-learning), Director, Center for Engineering Education, Hong Kong University of Science and Technology)
16:10～	休憩
16:25～	パネルディスカッション モデレーター：松下 佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター教授) 指定討論者：喜多 一 パネリスト：Xiaoming Li, Ricky Yu-Kwong Kwok, Cheolil Lim, Ting Chuen Pong, 飯吉 透
17:45	閉会

※Kwok 教授の基調講演は諸事情により中止となりました。

(河野 亘・飯吉 透)

## 2. MSUとの交流

2018年5月23日、Michigan State University (MSU) の教職員・学生が京都大学を訪問し、本センターおよび本学国際戦略本部の教職員、教育学研究科高等教育学コース（本センターが教育学研究科にもつ協力講座）の大学院生らと交流を行いました。学生間交流では、各大学2名ずつ計4名でグループを作り、「学生の特徴」「大学が提供するサービス」「教育・学習上の問題点」などのテーマに分かれてグループワークを行いました。まず、それぞれが自大学の状況について報告した後、改善のためにどのような取り組みが必要かについて議論を行い、最後に、グループワークの成果を発表しました。

MSUの学生からは、教育経験を積むために大学院生が教壇に立った場合、その授業の質が保証されないことなどが問題として提起され、どのようにFD（ブレFDを含めて）を実質化していくべきかなどに関して意見交換が行われました。

日本とアメリカという異なる国においても、大学教育が抱える課題としては共通性があることを再確認し、問題の解決においては今回の交流のようにお互いの取り組みを共有する場が重要であることを強く認識できた、双方にとって有意義な機会となりました。



（松下 佳代・長沼 祥太郎）

## 3. 第94回公開研究会「課題ベースのコアカリキュラムにおけるコースデザイン、インタラクティブな講義、教員支援のあり方について」

2018年12月21日に、ハーバード大学メディカルスクールより、カリキュラム・フェローのガヴィン・ポーター氏 (Dr. Gavin Porter) をお招きし、第94回公開研究会を開催しました。ポーター氏は、香港大学のCETL (Centre for the Enhancement of Teaching and Learning) での講師の経験もお持ちで、世界的な2つの大学、とりわけ在籍期間の長かった香港大学での教育改善の方法について、様々なテーマについて報告がなされました。

現在の大学において、多様な学生たちを対象に、一般教育やリベラルアーツのカリキュラムを実施していく際には、多くの困難な課題に直面します。例えば、大人数のクラスで、当該分野を専攻しない学生たちをも授業に巻き込んでいくにはどうすればよいか、そういう授業を担当する教員にどんなFDを行うか、といった課題です。コースをどうデザインするか、クリッカーやクラウドソーシングをどう利用するかなどは、そうした課題を解決する糸口になります。ポーター氏は、このような内容について、香港大学のコモンコアカリキュラムのFDシリーズ“Pizza, Pinot, and Pedagogy”などを引き合いに出しながら、具体的かつ軽妙に話を展開していかれました。

英語のみの研究会であったこともあり、参加者は21名と多くありませんでしたが、東京からもMOOCやFDを担当しておられる方々が参加され、本センターの院生たちも積極的に参加して、大変活気に満ちた質疑応答・意見交換が行われました。

● 公開研究会：<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/news/news-900/>



（松下 佳代）



## 4. 訪問・参加報告

### (1) 2018 Open edX Conference

**会議名称** 2018 Open edX Conference (<https://con.openedx.org/>)

**期間・場所** 5月29日～6月1日、モントリオール大学(カナダ)

**参加者** Isanka Wijerathne

今回のOpen edXカンファレンスはカナダのモントリオール大学、モントリオール商科大学、モントリオール理工科大学がホストとなって開催されました。大学教職員、教育研究者、技術者、Open edXの関連企業など400名を超えるOpen edX関係者が参加し、日本からは東京工業大学の関係者も参加していました。2日間の会議に加え、体験型のトレーニングセッションや開発者サミットも1日ずつ設けられており、私は本会議の他に、技術セッションやデータ解析セッションを中心に参加させていただき、様々な情報を得る機会となりました。

(Isanka Wijerathne、訳：安宅 純子)



### (2) 2018 edX Global Forum

**会議名称** 2018 edX Global Forum (<http://globalforum.edx.org>)

**期間・場所** 11月14～16日、Boston Park Plaza Hotel(米国マサチューセッツ州ボストン)

**参加者** 飯吉透・酒井博之・Isanka Wijerathne

11月14日から3日間にわたり、米国マサチューセッツ州ボストンのBoston Park Plaza Hotelにおいて第8回目となるedX Global Forumが開催されました。edXおよびその加盟機関から関係者が年に一度集い、MOOCやそれを取り巻く教育全般に関する現状や課題、edXの今後の方向性等に関して議論がなされました。

今回のGlobal Forumでは、2年前に開始した正規の修士課程プログラムとの単位互換を実現するプログラム「MicroMasters」等の受講者の体験を共有するセッションや、社会人のスキルの更新や向上をテーマとしたセッションが設けられるなど、大学を越えた学習機会提供の可能性に関する議論が増えてきたことが印象的でした。

(酒井 博之)

